

事業報告書

2022年度

自 2022年 1月 1日

至 2022年12月31日

公益財団法人 岩谷直治記念財団



目 次

事業概況と実績	2
1. エネルギー及び環境に関する独創的で優れた研究に 対する助成	3
2. エネルギー及び環境に関する優れた技術開発で顕著な 産業上の実績が認められる業績の表彰	9
3. 人材育成と国際交流への助成	10
4. 情報活動	13
5. 主要事業日誌	13
事業報告の附属明細書	16

<事業概況と実績>

当財団は科学技術に関する研究開発の助成及び奨励、国際交流の推進のための援助並びに人材の育成を行なうことにより、科学技術全般の一層の発展を図り、もって国民生活の向上及び国際的な相互理解の促進に寄与することを目的としております。
その達成のために2022年度においては、つぎの事業を実施いたしました。

1. エネルギー及び環境に関する独創的で優れた研究に対する助成

第49回（2022年度）岩谷科学技術研究助成 72件 142,110千円

2. エネルギー及び環境に関する優れた技術開発で顕著な産業上の実績が認められる業績の表彰

第49回（2022年度）岩谷直治記念賞 該当なし

3. 自然科学分野における人材育成と国際交流への助成

岩谷国際留学生奨学助成 45,973千円

第48回（2022年度）奨学生（新規） 14名

第47回（2021年度）奨学生（継続） 11名

第46回（2020年度）奨学生（継続） 1名

2022年度までの累計で、岩谷科学技術研究助成は1,094件 21億9,147万円、岩谷直治記念賞は47件 1億1,000万円、岩谷国際留学生奨学助成は498名 9億4,704万円に達しました。

1. エネルギー及び環境に関する独創的で優れた研究に対する助成

—岩谷科学技術研究助成—

1) 決定

選考委員会推薦の別表－1に記載の72件を、2022年11月開催の定例理事会で承認した後、理事長が第49回（2022年度）助成対象に決定した。
助成金総額は142,110千円。

2) 助成対象と推薦

(1) 助成対象

「エネルギー及び環境」を中心とした関連研究分野における基礎的研究並びに
応用開発などの実用的研究

(2) 推薦期間

6月1日～7月31日（2ヶ月間）

(3) 推薦依頼先

国立大学	私立大学	公立大学	高等専門 学校	大学院 大学	合計
169	101	34	59	8	371

(4) 推薦件数

197件（前年度196件）

3) 選考経過

(1) 第1回選考委員会（9月2日）

本年度の応募総数197件を11名の選考委員で分担し書類選考を行うことを決定した。応募案件1件について2名の選考委員が専門性を加味し審査を担当するため、1人当たりの審査件数は35～37件となった。

(2) 書類審査

各選考委員は定められた「審査基準及び審査報告」に基づき書類審査を行い、審査内容を記載した「評価表」を事務局で「審査集計表」にまとめ、選考委員長に提出した。

(3) 第2回選考委員会（10月27日）

各選考委員から提出された「評価表」及び「審査集計表」をもとに審議を行った結果、研究助成候補として別表－1の72件の推薦を決定した。

4) 第9回研究成果発表会（3月7日、オンライン開催）

(1) 研究成果発表（3分間スピーチ）

助成金受領者による研究成果発表（3分間スピーチ）のオンライン配信を行い、研究の成果や途中経過について発表を行った。

発表者：第46回（2019年度）助成金受領者 3名

第47回（2020年度）助成金受領者 57名 計60名

(2) 質疑応答

選考委員11名と発表者60名によりオンラインでの質疑応答を行った。

(3) ポスター掲示

特設Webサイト上に発表者60名のポスターを掲出した。

5) 第48回（2021年度）岩谷科学技術研究助成金贈呈式（3月7日、オンライン開催）

(1) 研究助成金贈呈書授与

第48回（2021年度）助成金受領者69名に対して、研究助成金贈呈書の授与を行った。

別表-1：第49回（2022年度）岩谷科学技術研究助成金受領者

番号	所 属	役職・研究者	研 究 テ ー マ	助成金額 (千円)
1	帝京科学大学 生命環境学部	准教授 石井 あゆみ	太陽光エネルギー利用効率向上のための近赤外-可視エネルギー変換型ハイブリッド薄膜の開発	2,000
2	北海道大学 量子集積エレクトロニクス研究センター	教授 石川 史太郎	シリコン基板上大容量化合物半導体ナノワイヤによる大出力光電変換	2,000
3	神戸大学 バイオシグナル総合研究センター	准教授 乾 秀之	細菌由来代謝酵素を用いた有機フッ素化合物の分解技術の開発	2,000
4	広島大学 大学院先進理工系科学研究科	教授 井口 佳哉	高レベル放射性廃棄物の選択的処理に関する分子科学研究	2,000
5	東北大学 多元物質科学研究所	助教 岩瀬 和至	多元素スピネル酸化物の精密合成による高活性触媒開発	2,000
6	豊田工業大学 大学院工学研究科	教授 岩田 直高	様々なエネルギーハーベスティング電力を高効率で整流するGaNヘテロ構造ダイオードの創製	2,000
7	日本大学 工学部	教授 上野 俊吉	超高融点酸化物共晶皮膜の成膜手法に関する研究	2,000
8	大阪大学 接合科学研究所	教授 梅田 純子	電子励起場形成によるマグネシウムの電位差腐食現象の抑制	2,000
9	兵庫県立大学 大学院工学研究科	教授 梅山 有和	高い安定性と再現性を併せ持つ高効率有機薄膜太陽電池に向けた電子アクセプター材料の開発	2,000

10	岡山大学 学術研究院自然科学学域	教授 依馬 正	二酸化炭素を化学原料とする環境調和性ポリマーの合成	2,000
11	長崎大学 総合生産科学域	准教授 大貝 猛	誘導共析法を利用した鉄族金属基ハイエントロピー合金 ナノピラー配列型水素発生用触媒電極材料の開発	2,000
12	工学院大学 先進工学部	教授 大倉 利典	全固体ナトリウムイオン電池材料としての酸化物結晶化 ガラスの開発	2,000
13	筑波大学 生命環境系	助教 大森 裕子	海洋マイクロレイヤーから放出される揮発性有機化合物 の定量評価	2,000
14	早稲田大学 理工学術院	講師 岡澤 厚	溶解度の化学と機械学習に基づく高エネルギー密度なレ ドックスフロー電池活物質の開発	2,000
15	東北大学 大学院工学研究科	准教授 岡田 健	遷移金属を添加した層状ホウ化物材料のアンモニア合成 触媒機能	2,000
16	大阪大学 大学院工学研究科	助教 緒方 奨	超臨界地熱発電の実現に向けた超臨界水-岩石反応機構 の解明とモデル化	2,000
17	大阪公立大学 大学院工学研究科	准教授 尾島 由紘	細胞鋳型を利用した水素発生反应用触媒の開発	2,000
18	名古屋大学 シンクロトロン光研究 センター	助教 小野田 浩宜	構造予測AIと動的構造解析を併用したバイオ燃料生産酵 素の高度化	2,000
19	北見工業大学 工学部	教授 小原 伸哉	CO ₂ ハイドレート熱サイクルによる高圧解離ガスを電力変 換する安価な大容量バッテリーの開発	2,000
20	公立小松大学 生産システム科学部	准教授 粕谷 素洋	モーター高効率化のための高性能軟磁性積層体のナノ接 合法開発	2,000
21	名城大学 理工学部	准教授 片桐 誠之	下水汚泥の燃料利用を促進する高度脱水法の開発	2,000
22	長岡技術科学大学 電気電子情報系	助教 金井 綾香	レアメタルフリー低コスト薄膜太陽電池の実現に向けた SnS雰囲気制御薄膜成長法の開発	2,000
23	広島大学 大学院先進理工系科学研究科	教授 金指 正言	シリカネットワークエンジニアリングの提案とC2-C4系炭 化水素分離の高度化	2,000
24	早稲田大学 理工学術院	次席研究員 川合 航右	層状遷移金属炭化物MXeneを用いた全固体電池の開発	2,000
25	熊本大学 大学院先端科学研究部	教授 木田 徹也	混合導電性炭素膜を用いた非対称型水素透過膜による超 選択的水素透過	2,000
26	東京工業大学 科学技術創成研究院	助教 邱 琬婷	磁性形状記憶合金NiMnGa単結晶粒子/銅薄膜の積層複合材 料で構成された高効率磁気冷却デバイスの開発	2,000
27	東京農工大学 大学院工学研究院	准教授 倉科 佑太	天然高分子を用いた音響応答性ハイドロゲルによる遠隔 生体マイクロセンサの開発	2,000

28	茨城大学 大学院理工学研究科	教授 倉本 繁	水素プラズマを利用したアルミニウム系水素化物合成法の確立	2,000
29	長岡技術科学大学 技学研究院	准教授 桑原 敬司	超小型バイオ燃料電池に向けた微小電極表面の選択的な生体分子修飾法の開発	2,000
30	東京都立産業技術高等 専門学校 ものづくり工学科	准教授 小出 輝明	ブレードピッチ制御機構を持つ高効率の直線翼垂直軸風車の開発	200
31	大阪大学 大学院工学研究科	准教授 近藤 美欧	協奏的機能統合戦略に基づく人工光合成システムの開発	2,000
32	新潟大学 工学部	准教授 齊藤 健二	異種元素ドーピング炭酸カルシウムを用いたソーラー蒸留システムの開発	2,000
33	東京農工大学 大学院工学研究院	准教授 桜井 誠	通電加熱構造体触媒による水蒸気改質水素製造プロセスの高性能化	2,000
34	大阪大学 大学院工学研究科	講師 重光 孟	『水を電子源』・『光をエネルギー源』として過酸化水素を発生させる超分子光触媒の創成	2,000
35	高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科	准教授 白井 智彦	分子に潜在する温室効果ガスの触媒的抽出/再固定化を利用した光学活性化化合物合成法	2,000
36	奈良女子大学 研究院自然科学系	助教 瀬戸 繭美	太陽光動力ピオトープの設置とカーボンニュートラル・生態学の教育・研究への活用	2,000
37	東京工業大学 理学院	准教授 鷹谷 絢	光エネルギーを利用した二酸化炭素固定化反応の開発	2,000
38	長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科	教授 竹内 麻希子	組成制御したケステライトの発光に関連した真性欠陥の解明	1,950
39	東京工業大学 化学生命科学研究所	助教 田中 裕也	金属錯体熱電素子の開発	2,000
40	福井大学 学術研究院	准教授 党 超鋌	次世代高性能データセンター用アクティブおよびパッシブ相変化冷却手法の開発	2,000
41	京都大学 化学研究所	助教 チョン ミンアン	マルチポッド型単分子膜を電荷回収層に用いたペロブスカイト太陽電池の高性能化	2,000
42	東京工業大学 物質理工学院	准教授 豊田 栄	安定同位体比測定による水素エネルギーの環境影響評価	2,000
43	豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端 融合研究所	教授 永井 萌土	微細藻類で一方向輸送を実現する原理の確立	2,000
44	福井大学 遠赤外領域開発研究センター	研究機関研究員 仲川 晃平	ミリ波・マイクロ波エネルギーによるグリーンプロセス技術の開発	2,000

45	京都大学 大学院農学研究科	助教 中沢 威人	菌類遺伝学を利用した白色腐朽菌の選択的リグニン分解能強化	2,000
46	名古屋大学 大学院理学研究科	助教 中埜 彰俊	冷熱を電気に変換する硫化物熱電材料の創成	2,000
47	九州大学 ネガティブエミッションテクノロジー研究センター	助教 中野 健央	新規ポルフィリン含有細孔構造を基盤とする、CO ₂ 吸着材料の開発	2,000
48	熊本大学 大学院先端科学研究部	教授 中村 有水	新しい酸化物薄膜 (CuGaO ₂) を用いた超高効率太陽電池の研究	2,000
49	岐阜薬科大学 薬学部	講師 中山 辰史	酸素の量子トンネルを使ったエネルギーの効率的な取り出し方に関する研究	2,000
50	京都大学 化学研究所	特定助教 成田 秀樹	多元素人工超格子を用いた超伝導の制御	2,000
51	宇部工業高等専門学校 物質工学科	准教授 野本 直樹	電力も管理も必要としない新規下水処理配管システムの開発	2,000
52	長岡技術科学大学 技学研究院	准教授 幡本 将史	スポンジ担体リアクターによるバイオメタネーション・消化ガスアップグレーディング技術の開発	2,000
53	九州大学 大学院工学研究院	教授 林 克郎	単粒子固体電解質膜による高出力定置向け全固体ナトリウムイオン蓄電池	1,960
54	金沢大学 理工研究域	教授 春木 将司	磁場を利用した高熱伝導性フィラー/ポリイミド高耐熱性複合材料作製技術の確立	2,000
55	神戸大学 大学院工学研究科	准教授 日出間 るり	複雑流体を利用した効率的な流体輸送・流体混合システムの開発	2,000
56	名城大学 理工学部	教授 平松 美根男	3次元ナノグラフェンを基盤とする次世代グリーンプラットフォームの開発	2,000
57	沖縄科学技術大学院大学 海洋生態進化発生生物学ユニット	教授 ビンセント ラウデット	稚魚生理学に基づく沿岸域モニタリングシステムの開発	2,000
58	東京理科大学 理工学部	准教授 古屋 俊樹	未利用バイオマス資源からの過酸化水素生産とバイオプロセスへの応用	2,000
59	新潟大学 自然科学系	特任准教授 星野 哲久	有機電子材料と錯体触媒の融合による大電流触媒電極の開発	2,000
60	工学院大学 先進工学部	准教授 前野 禪	ケミカルループ法によるCO ₂ ・CH ₄ 資源化反応に有効な機能集積型触媒の開発	2,000
61	横浜国立大学 大学院工学研究院	准教授 松澤 幸一	グリーン水素製造を見据えた革新的なアルカリ水電解用陽極の開発	2,000

6 2	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科	教授 松田 厚範	多孔質無機微粒子ーイミダゾール塩酸塩複合体を用いた 高温作動燃料電池電解質膜の研究	2,000
6 3	熊本大学 大学院先端科学研究部	教授 松田 真生	空孔を有する有機強相関電子材料の設計と混合伝導体の 創出	2,000
6 4	神戸大学 大学院理学研究科	准教授 松原 亮介	非金属触媒系による水の光酸化反応の開発	2,000
6 5	東京農工大学 大学院工学研究院	助教 森田 将司	層状ケイ酸塩/多孔性金属錯体ハイブリッド材料による耐 水性CO ₂ 吸着分離材料の開発	2,000
6 6	東京大学 大学院理学系研究科	教授 山田 鉄兵	酸化還元活性を有するナノ粒子を用いた廃熱回収型と熱 電変換システムの創成	2,000
6 7	大阪公立大学 先端科学研究院	教授 吉田 朋子	新奇概念（光触媒自身のRedox反応）による高効率人工光 合成系の開発	2,000
6 8	香川大学 創造工学部	教授 吉田 秀典	食品廃棄物を利用した木質灰ならびに焼却灰の無害化と 無害化灰類のコンクリートへの混和に関する研究	2,000
6 9	東北大学 材料科学高等研究所	准教授 Li Hao	データマイニングと理論計算に基づく遷移金属酸化物電 極のスクリーニング	2,000
7 0	岩手大学 理工学部	准教授 脇倉 和平	水素の高効率液化を可能にする環境低負荷な希土類硫化 物を用いた磁気冷凍材料の開発	2,000
7 1	千葉大学 大学院工学研究院	准教授 和嶋 隆昌	アルカリ溶融の活用による水素貯蔵タンクの再資源化技 術の開発	2,000
7 2	帝京科学大学 生命環境学部	教授 和田 龍一	雷から発生する窒素酸化物計測技術の開発と山岳を利用 した大気計測への応用	2,000

2. エネルギー及び環境に関する優れた技術開発で顕著な産業上の実績が認められる業績の表彰

－岩谷直治記念賞－

1) 決定

選考委員会は、第49回（2022年度）の推薦はなしとし、2022年11月開催の定例理事会で報告した後、理事長が第49回（2022年度）の表彰対象は該当なしと決定した。

2) 表彰対象と推薦

(1) 表彰対象

エネルギー及び環境に関する優れた技術開発で顕著な産業上の実績が認められる業績の表彰

(2) 推薦期間

6月1日～8月31日（3ヶ月間）

(3) 推薦依頼先

学会・協会等	企業	合計
171	23	194

(4) 推薦件数

1件（前年度3件）

3) 選考経過

(1) 第1回選考委員会（9月2日）

推薦案件1件を選考委員全員で審査することとした。

(2) 書類審査

各選考委員は定められた「審査基準及び審査報告」に基づき書類審査を行い、審査内容を記載した「評価表」を事務局で「審査集計表」にまとめ、選考委員長に提出した。

(3) 第2回選考委員会（10月27日）

各選考委員から提出された「評価表」及び「審査集計表」をもとに、技術的独創性、産業上の実績等の視点から審議を行った結果、本年度の岩谷直治記念賞の推薦は該当なしとした。

4) 第48回（2021年度）岩谷直治記念賞贈呈式（3月7日、オンライン開催）

(1) 賞状・賞牌・副賞の授与

受賞業績：家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

「エネファーム type S」の開発

受賞者：大阪ガスマーケティング株式会社

商品技術開発部 燃料電池開発チーム

井上修一 マネジャー 他 計5名

3. 人材育成と国際交流への助成

－岩谷国際留学生奨学助成－

1) 決定

岩谷国際奨学生を決定した。

第48回（2022年度）奨学生 14名（新規）

第47回（2021年度）奨学生 11名（継続）

第46回（2020年度）奨学生 1名（継続）

奨学金総額は45,973千円

2) 選考経過

2021年12月1日～20日まで20日間に亘り留学生の公募をしたところ、152名（前年度241名）の応募があった。

2022年1月～2月に実施した書類審査・面接により、別表－3－1記載の14名に絞り込み、理事長が第48回（2022年度）の新規奨学生に決定した。なお、学位の取得を目指す別表－3－2記載の2021年度奨学生11名、及び2020年度奨学生1名については、継続して岩谷国際奨学生とした。

3) 交流活動

(1) 奨学生間及び奨学生と財団の相互理解と親睦を図るため例会を開催した。

<第47回（2021年度）奨学生>

第5回例会（3月11日、オンライン開催）

内 容：2021年度の振り返り

参加者：奨学生15名

<第48回（2022年度）奨学生>

第1回例会（4月15日） 於：都内

内 容：オリエンテーション

参加者：奨学生14名

第2回例会（7月8日） 於：都内近郊

内 容：都内見学、体験

参加者：奨学生12名

第3回例会（9月29日～10月1日） 於：沖縄本島・石垣島

[第47回（2021年度）奨学生との合同開催]

内 容：研修旅行（大学訪問、工場見学、体験）

参加者：奨学生14名、前年度奨学生11名

第4回例会（12月1日～2日） 於：都内・横浜近郊

内 容：研究発表会、個人面談、工場見学、体験

参加者：奨学生14名、奨学生OB・OG4名

(2) 学位取得後、日本や各地域で活躍している奨学生OB・OGとの交流を図るため、「友の会」を開催した。

第4回日本支部会（8月20日） 於：都内

内 容：「アナと雪の女王」観劇、交流会

参加者：奨学生OB・OGと家族 103名

別表-3-1：第48回（2022年度） 岩谷国際奨学生

	氏名	国・地域	大学・専攻	課程
1	陳 艶玲 CHEN YANLING	中国	京都大学 地域環境科学	修2
2	金 經祚 KIM KYOUNGJO	韓国	東京大学 バイオエンジニアリング	修1
3	馬 禎珠 MA JEONGJU	韓国	佐賀大学 先進健康科学	修2
4	ビドバヤサフ ホラン BIDBAYASAKH KHULAN	モンゴル	豊橋技術科学大学 応用化学・生命工学	修1
5	ジャミヤンプレブ ソヨルマ JAMIYANPUREV SOYOLMAA	モンゴル	信州大学 農学	修1
6	イハン ラマダニ IHSAN RAMADHANI	インドネシア	大阪大学 応用化学	修1
7	シアマタ クスマ デウィ SHIAMITA KUSUMA DEWI	インドネシア	岐阜大学 生物環境科学	博2
8	ノライン ビンティ アブドラー NORAIN BINTI ABDULLAH	マレーシア	近畿大学 メカニックス系工学	博3
9	グレン キュー マン ロング GLEN KHEW MUN LOONG	マレーシア	山口大学 機械工学系	博1
10	ヌル ファルザナ アイミ ビンティ アブドラー NURUL FARZANA AIMI BINTI ABDULLAH	マレーシア	新潟大学 材料生産システム	修1
11	ハン ネー アウン HAN NAY AUNG	ミャンマー	関西学院大学 情報科学	修1
12	グエン タイズオン NGUYEN THAI DUONG	ベトナム	防衛大学校 装備・基盤工学系	博3
13	レー ティ アイン LE THI ANH	ベトナム	石川県立大学 食品科学	修1
14	グエン ハー ヴィ NGUYEN HA VY	ベトナム	鹿児島大学 食品創成科学	修2

別表-3-2: 第47回(2021年度) 岩谷国際奨学生 継続者

No	氏名	性別	年齢	国・地域	大学・専攻	課程
1	エスカル エンニワ AISIKAER ANNIWAER	男	27才	中国	弘前大学 安全システム	博3
2	隋遇安 SUI YU-AN	男	28才	台湾	京都大学 応用生命科学	博3
3	ガラブドルジ バトニヤクト GARAVDORJ BATNYAGT	男	27才	モンゴル	岩手大学 自然・応用科学	博3
4	ニコラス エコ サプトラ NICOLAS EKO SAPUTRA	男	23才	インドネシア	大阪市立大学 都市系	修2
5	タン シャオイン TAN SHAO YING	女	24才	マレーシア	大阪大学 生物工学	修2
6	ジン タンダー テウン ZIN THANDAR TUN	女	28才	ミャンマー	長岡技術科学大学 エネルギー・環境工学	博3
7	レガスピ アンナ エスペランザ キゾン LEGASPI ANNA ESPERANZA QUIZON	女	27才	フィリピン	東京大学 環境システム	博2
8	ブンミ パウイタ BUNME PAWITA	女	26才	タイ	九州工業大学 電気電子工学	博2
9	ソラウィット ポンピヤパイブーン SORAWICH PONGPIYAPAIBOON	男	21才	タイ	宮崎大学 農学国際	修2
10	チョンマンコン シラダー CHONGMANKHONG JILADA	女	22才	タイ	大阪大学 行動生態学	修2
11	ゴー ティ トゥー タオ NGO THI THU THAO	女	28才	ベトナム	北見工業大学 バイオ環境化学	修2

別表-3-2: 第46回(2020年度) 岩谷国際奨学生 継続者

No	氏名	性別	年齢	国・地域	大学・専攻	課程
1	クエン ティ スエン NGUYEN THI DUYEN	女	25才	ベトナム	鹿児島大学 農林資源科学	修2

4. 情報活動

1) 出版・刊行物

- (1) 財団機関誌「needs」を8月1日に刊行し、各地の図書館、他財団、当財団関係者及び奨学生、奨学生OB・OGに送付した。(1,150部)
- (2) 「研究報告書」を8月1日に刊行し、研究助成金を受領した先生方の他、各地の図書館、他財団及び当財団関係者に送付した。(800部)
- (3) 贈呈式ブックレット
岩谷記念賞受賞者、及び、岩谷科学技術研究助成金受領者を掲載した冊子を作成し、贈呈式出席者に送付した。(250部)

2) インターネットによる情報開示

ホームページの全面リニューアルを行い、7月11日より公開した。
岩谷科学技術研究助成、岩谷直治記念賞および岩谷国際留学生奨学助成の3事業や、当財団に関する情報などを広く一般に公開している。
また、3事業の会員専用ページを活用することによって、交流と業務の効率化を図っている。

5. 主要事業日誌

年月日	内 容
2022/1/14	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生候補者書類選考
1/31	2021年度(2021年1月1日～12月31日)監査
2/ 2～3	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生候補者面接選考
2/ 7	2022年度第1回定例理事会 ・2021年度(1月1日～12月31日)事業報告書(案)並びに計算書類(案)承認 ・評議員候補者(補欠1名:2022年3月18日～2024年3月)(案)承認 ・第25期(2022年4月1日～2024年3月31日)研究助成及び表彰に関する選考委員(案)承認 ・第25期(2022年4月1日～2024年3月31日)奨学生選考委員(案)承認 ・第49回(2022年度)岩谷科学技術研究助成候補者推薦要項(案)及び推薦書(案)承認 ・第49回(2022年度)岩谷直治記念賞候補者推薦要項(案)及び推薦書(案)承認 ・2022年度定時評議員会開催(案)承認 ・理事長及び常務理事の職務執行状況報告 他
3/ 2	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生決定(14名)

年月日	内容
3/ 7	第9回研究成果発表会 第48回(2021年度)岩谷直治記念賞・岩谷科学技術研究助成金贈呈式
3/11	第47回(2021年度)岩谷国際奨学生第5回例会
3/18	2022年度定時評議員会 ・2021年度(1月1日～12月31日)計算書類(案)承認 ・評議員(補欠1名:2022年3月18日～2024年3月)選任 ・評議員会長選定 ・2021年度(1月1日～12月31日)事業報告 他
3/29	内閣府に事業報告等に係る提出書(2021年度分)提出
4/ 1	内閣府に変更届(評議員1名補欠選任)提出
4/11	京橋税務署に「公益法人等の損益計算書等の提出書」(2021年度)提出
4/15	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生第1回例会
6/ 1	第49回(2022年度)岩谷直治記念賞候補者募集開始 第49回(2022年度)岩谷科学技術研究助成候補者募集開始 財団ホームページへ記念賞及び研究助成の推薦要項・推薦書を掲載
6/ 8	2022年度第1回臨時理事会(決議の省略) ・この法人が保有する株式等の議決権の行使承認 ・当財団の主たる事務所移転(案)承認 ・2022年度第1回臨時評議員会開催(案)承認 ・「個人情報に関する基本方針」(案)及び「個人情報保護規程・附属規程」(案)承認 ・履歴事項全部証明書の「法人の公告方法」に記載するホームページのアドレス変更(案)承認
6/16	2022年度第1回臨時評議員会(決議の省略) ・定款変更(案)承認
7/ 8	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生第2回例会
7/11	財団ホームページリニューアルカットオーバー
7/31	岩谷科学技術研究助成推薦締切(197件)
8/ 1	研究報告書(Vol. 45)発刊 財団機関誌「needs」(Vol. 48)発刊
8/20	岩谷国際奨学生「友の会」第4回日本支部会
8/31	岩谷直治記念賞推薦締切(1件)
9/ 2	2022年度第1回選考委員会(研究助成・記念賞)
9/12	新事務所業務開始(事務所移転)

年月日	内 容
9/12～28	事務所移転手続(法務局・内閣府・税務署・社会保険事務所・銀行 他)
9/29～10/1	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生第3回例会(研修旅行)
10/27	2022年度第2回選考委員会(研究助成・記念賞)
11/16	2022年度第2回定例理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・岩谷直治記念財団設立50周年記念事業実施内容の一部変更(案)並びに 特定費用準備資金の積立額の変更(案)、取崩(案)承認 ・研究助成及び表彰に関する選考委員の報酬等及び費用の一部変更(案)承認 ・岩谷日本人大学院生奨学助成事業実施(案)承認 ・奨学生選考規程の一部変更(案)承認 ・2023年度(1月1日～12月31日)事業計画書(案)承認 ・2023年度(1月1日～12月31日)収支予算書(案)並びに 「資金調達及び設備投資の見込みについて」(案)承認 ・第49回(2022年度)岩谷科学技術研究助成候補72件承認 ・理事長及び常務理事の職務執行状況報告 他
11/21	第49回(2022年度)研究助成金受領者開示
11/22	内閣府に2023年度事業計画書及び収支予算書提出
12/ 1～2	第48回(2022年度)岩谷国際奨学生第4回例会
12/ 1	第49回(2023年度)岩谷国際奨学生募集開始
12/20	第49回(2023年度)岩谷国際奨学生募集締切(196名)

以 上

事業報告の附属明細書

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項なし。